

# ❖ 初出場校の夏。神楽甲子園を終えて ❖

## にま 島根県立邇摩高等学校



「邇摩高校の石見神楽同好会は、昨年立ち上げたばかりのクラブです。創部当初からの神楽甲子園を一つの目標にして頑張ってきました。総勢10名の部員がいますが、他の部活と掛け持ちしている生徒も多いので、昼休みなども練習に当てて取り組んできました。本番では緊張しましたが、これまでの練習の成果を出すことができたと思います」(部長 今田圭さん)

## やつお 富山県立八尾高等学校



「最初は神楽ではない“おわら”を発表していいのだろうかという不安がありましたが、いざ舞台に出てみると会場のみなさんが一緒に踊ってくださり、大変嬉しかったです。全国規模の大会に出場したのは、自分たちにとってかけがえのない経験になりました。観客、舞台の裏方、宿泊先でお世話になった方々への感謝の気持ちでいっぱいです」(副部長 武部裕人さん)

特別  
出演

# 🎋 神楽甲子園を陰で支えた功労者たち 🎋



美土里町北振興会  
会長 伊藤実勇さん

地域の4世帯で岩手県立葛巻高校の生徒さん15人の民泊を受け入れました。地域の人と交流することで少しでもリラックスしてもらい、いつもの力が出せるようにサポートしています。来年も続けていきたいですね。



広島新庄高等学校  
部長 立川大貴さん

今年は部員が少なかったため、今回は神楽を上演することができませんでしたが、何かお手伝いをしたいと思い、総合司会として参加しました。演者とは違う視点で参加でき、とてもよい経験になりました。



龍谷大学 3年生  
徳田舞美さん

大学で街づくりについて研究しています。高校生と地域の方々の連携を身近で感じるためにボランティアに参加しました。神楽甲子園が多くの人の協力と努力によって成り立っていることを知り、とても勉強になりました。



(株)システック  
代表取締役社長 梶村一成さん(右)  
執行役員 太田浩道さん(左)

八千代町向山にある太陽光発電を管理しているご縁で、静岡から参加しました。神楽を見るのは初めてで、その迫力に驚かされました。来年は、日本文化を大切にしている企業として、新入社員研修の一環で参加したいと思います。

## 『beyond2020プログラム』の認証を受け、留学生を招待

『beyond2020 プログラム』とは、日本文化の魅力を発信するとともに2020年以降を見据えたレガシー創出のための文化プログラムのこと。神楽甲子園がこのプログラムに認証されたことを受けて、約50人の留学生を招待しました。ほとんどの留学生が神楽を見るのは初めての体験で刺激を受けた様子。日本文化の発信に貢献しました。



7月29日(土)  
・30日(日)

# 第7回 高校生の神楽甲子園

## 集まった3800人を前に 高校生が庄巻の舞を披露

7月29日、30日の2日間に渡って開催された、高校生による高校生のための神楽甲子園。特別出演を含む17校が参加し、若さあふれるフレッシュな舞を披露しました。今年も、NHK BSプレミアムで放送されたドラマ『舞え！KAGURAHIME』の影響などもあり、昨年を上回る3800人を動員。会場からは大きな掛け声や拍手が贈られ、神楽ドームは熱気に包まれました。今回初めての試みとして、クラウドファンディングを活用し衣装運搬費や移動費等、資金の一部を調達。105万7000円の温かな支援を受け、開催することができました。その他、日本大学校友会広島県支部からは、日本大学富士の天然水が500本の贈呈があるなど、地域の方、ボランティアの方、その他数え切れないほど多くの人たちの支援と協力を受け、神楽甲子園は大成功のうちに幕を閉じました。また、大学の関係者にも高校生たちのがんばりを見てもらおうと、東京公演のポスターを制作している日本大学芸術学部演劇学科の藤崎周平教授を招いたり、約50人の留学生を招待するなど、新しい取り組みも実施されました。